

【志木市】 校務DX計画

文部科学省「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言に基づく次世代の校務デジタル化に向け、「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に示されている、教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現するため、本市において、次に掲げる事項を推進する。

(1) 校務系・学習系ネットワークの統合

本市では、令和2年10月以降から校務支援システムを導入することで、教職員の負担軽減および校務の効率化を図ってきた。しかし、システムを閉域網・オンプレミスで稼働していることで、クラウドサービスの活用が進まない一因となっておりGIGAスクール端末とのデータ連携が課題となっている。さらに、教育委員会がセンターサーバを管理しており、サーバの更新・設備の最新化や、大規模災害等によるリスクなどが課題である。これらの課題を解決するため、いわゆるゼロトラストの考え方に基づきアクセス制御によるセキュリティ対策を十分講じた上で、校務系・学習系ネットワークの統合を進める必要があると考える。本市の学習系ネットワークはローカルブレイクアウト型の構成となっており、これに校務系ネットワークを統合させることで、新たな教育情報ネットワークの実現を目指す。

(2) 校務支援システムの機能強化

次世代の校務DXにおいて、次世代の校務支援システムは、パブリッククラウド上での運用を前提に、教務・保健・学籍等に関する機能を中心とし、保護者連絡などのクラウドサービスと必要に応じて柔軟に連携することが望ましいとされている。

また、埼玉県教育委員会は、「学校における働き方改革基本方針」を令和4年4月に改訂し、「勤務管理システムによる在校時間の把握」、「学校・保護者間の連絡手段のデジタル化」、「教育委員会・学校間での事務手続きの電子化」について言及している。本市では、校務支援システムの機能拡張と各種システムとのデータ連携を実施し、教職員の働き方改革の推進や児童生徒と向き合う時間の創出を目指す。

(3) 次世代の校務デジタル化に向けた各種ツールの活用

校務の効率化や授業の質の改善を図るため、授業支援ソフトやデジタルドリルで蓄積された学習系データ、MEXCBTなどの教育行政データ、児童生徒の出欠及び成績情報等の校務系データなど、様々な教育データを自動的に収集・分析・加工して簡潔にまとめ、集計値や表、グラフなどで可視化するための管理ツール データ連携基盤ダッシュボードの導入やセキュアな環境下での校務における生成 AI の活用に向けた検討を行う。

(4) FAX・押印の原則廃止

外部事業者等とのFAX送受信については、電子メールで送受信可能な手続き・やり取りを精査し、電子メールによる送受信への移行を推進することで、FAXの原則廃止に取り組む。また、保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類等に関して、押印・署名の必要性を再検討し、アンケートフォームに置き換える等の代替手段への移行を推進することで、押印・署名の原則廃止に取り組む。